

北海道債の栞

北海道の財政状況など

令和6年度版





1. 北海道の概要

	Page
● 北海道のすがた	3
● 北海道の主な産業（1）農業・漁業・林業・工業	4
● 北海道の主な産業（2）観光業	5
● 北海道の交通ネットワーク	6
● 北海道の企業誘致の取組	7
● 「ゼロカーボン北海道」へ	8
● 北海道におけるSDGsの取組	9

2. 北海道の財政状況

	Page
● 行財政改革の取組	11
● 「行財政運営の基本方針（2021～2025）」	12
● 健全化判断比率の推移	13
● 道債発行額／道債残高の推移	14
● 令和4年度普通会計決算の概要	15
● 税収の推移	16
● 投資的経費／人件費の推移	17
● 令和5年度 北海道債発行計画	18
● グリーン共同債について	19
● 北海道債の活用状況について	20

「食べて応援！北海道」キャンペーン



中国による日本産水産物の輸入停止措置により、突然大きな販路を失ってしまったホタテなどの道産水産物。

苦しい状況の中でも、道内の漁業者は、海の環境を守る努力をしながら、安全・安心で美味しい水産物を届けるため、漁業を続けています。

このキャンペーンを通じ、消費者の皆さんには、これまで以上に道産水産物を選び、購入し、食べていただくことで、国内消費が増え、生産者や関連業界の応援につながります。

1. 北海道の概要

1. 北海道の概要 北海道のすがた



- 北海道は日本最北に位置し、日本の約5分の1に当たる広大な土地を有している〈日本で2番目に大きい島〉
- 四季の移り変わりが明確で多彩な表情を見せる独自の自然と文化を持った地域。

北海道の概要

周囲は太平洋、日本海、オホーツク海に囲まれ、雄大かつ変化に富む山岳、広大な湿原、美しい景観の天然湖沼などにより形成。

面積はオーストリアに匹敵する83,422km²、都道府県で最も広く、海岸線総延長、道路延長は日本一。

人口は全国8位の514万人で日本の総人口の4.1%を占める。人口密度は都道府県では最も低い。

年平均気温は10℃前後。本州以南に比べて冷涼・少雨。「積雪寒冷の地」。

地理的条件	面積	83,422km ²	全国1位（オーストリアに匹敵）
	海岸線総延長	4,461km	全国1位
	道路延長	91,472km	全国1位
人口	人口	514万人	全国8位（アイルランドに匹敵）
	人口密度	65.5人/km ²	全国47位
自然条件	年平均気温	10.2℃	全国47位
	年降雪量	389cm	全国2位

※ 北海道の人口密度は、北方領土を除いた面積により算出
※ 年降雪量は、都道府県庁所在地のデータ



北海道の鳥：タンチョウ



北海道の花：ハマナス

1. 北海道の概要 北海道の主な産業（1）農業・漁業・林業・工業



- 農業・漁業における産出額はともに全国1位であり、わが国最大の食料供給地域として重要な役割。
- 林業は、輸入材の減少などから道産木材の需要が増加し、道産木材自給率が向上。
- 工業では、豊富な素材を生かした食料品製造業の出荷額が2兆円と最も多い。

北海道の産業

農業	農業産出額は、1兆2,919億円。主な農畜産物は小麦、玉ねぎ、馬鈴しょや生乳などであり、いずれも全国1位の産出額。	全国1位（2022年）
漁業・養殖業	漁業・養殖業産出額は、3,182億円。主な海産物は、サケ、ホタテガイやコンブなどでいずれも全国1位の産出額。	全国1位（2022年）
林業	森林面積は554万ha、林業産出額は480億円。主な林産物はカラマツやトドマツであり、いずれも全国1位の産出額。R4年度道産木材自給率は69.9%（前年比+2.0ポイント）	森林面積 全国1位（2022年） 林業産出額 全国2位（2022年）
工業	製造品出荷額は、6兆1,293億円。主な製造業は、食料品製造業や石油製品・石炭製品製造業、鉄鋼業であり、これらの割合が製造品出荷額の5割以上。	全国19位（2021年）

主な農畜産物



小麦



玉ねぎ



馬鈴しょ



生乳

主な林産物



カラマツ



トドマツ

主な海産物



サケ



ホタテガイ



コンブ

主な製造業



乳製品



肉・水産食品



1. 北海道の概要 北海道の主な産業 (2) 観光業



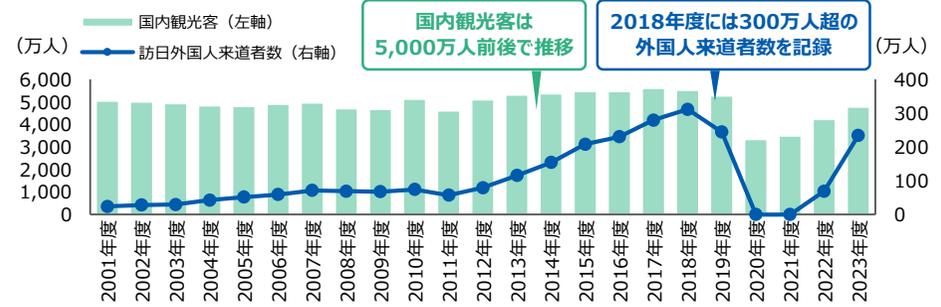
- 豊富な観光資源を有しており、観光業に強み。コロナ禍以前は年間約5,000万人の入込客数を記録。魅力度ランキングでは他都府県を抑え、15年連続の1位を獲得。
- アドベンチャートラベル^(※)の推進やワイン・ケア（癒やし・健康）・ナイトタイムエコノミーの要素の活用などにより、本道観光の高付加価値化を推進。
(※) アドベンチャートラベル(AT)：「アクティビティ」「自然」「異文化体験」の3つの要素のうち2つ以上を組み合わせた旅行形態のこと

観光資源と観光入込客数の推移



北海道の観光地は「北海道公式観光サイト」へ

北海道への観光入込客数・外国人来道者数の推移



出典：北海道観光局観光振興課

都道府県魅力度ランキング <2023年度>

順位	都道府県	魅力度 (点)
1	北海道	72.4
2	京都府	56.6
3	沖縄県	52.7
4	東京都	49.0
5	大阪府	43.3

調査を開始した2009年から
15年連続で1位

出典：ブランド総合研究所HPより作成

本道観光の高付加価値化に向けた取組



- 昨年は、AT関係者による国際イベント「ATWS」を開催するとともに、海外からの高いニーズにも応えるガイドの確保・育成のため、道独自に「北海道アドベンチャートラベルガイド」認定等制度を開始。
- ワイン・ツーリズム、ケア・ツーリズム、ナイトタイムエコノミーを柱とした旅行形態の高付加価値化のための取組を進めるとともに、海外にラブ事務所を設置し、現地の情報収集や欧米豪の富裕層等に向けたプロモーションを実施。

1. 北海道の概要 北海道の交通ネットワーク

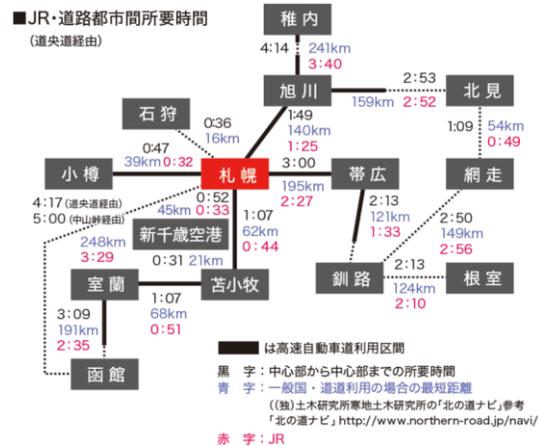


- 道内の主要都市は、国道や道道、高速道路、鉄道などさまざまな交通機関で結ばれているほか、新千歳空港は、羽田空港（約100分）や中部空港（約110分）、関西空港（約140分）などとの路線が就航しており、道外主要都市と高いアクセス性を有している。

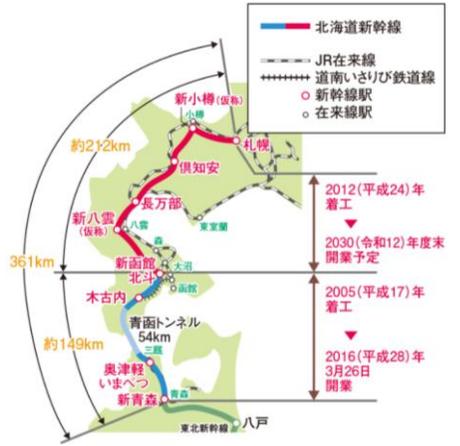
北海道の交通ネットワーク

区分	内容
道路	<ul style="list-style-type: none"> ● 国の計画に基づく北海道の高規格幹線道路の総延長は1,825 kmであり、そのうち1,199 kmが開通済（2023年3月現在） ● 今後、高規格幹線道路の延伸により、さらなる物流の効率化や周遊観光の振興、救急搬送時間の短縮などの効果が期待
鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ● 2016年に北海道新幹線の新青森・新函館北斗間が開業し、今後札幌まで延伸予定 ● 北海道新幹線の札幌開業により約2兆5,000億円の経済波及効果と約19万7,000人の雇用創出（道推計ベース）
港湾	<ul style="list-style-type: none"> ● 室蘭や苫小牧の国際拠点港湾など35の港湾が所在（2022年10月現在） ● 小麦などの農産物の輸出やパルプチップなどの原材料の輸入など、道内における輸出入貨物量の9割以上を港湾が取り扱っており、本道の経済活動を支える重要な拠点
航空	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在13の空港があり、国内線は道内11路線、道外36路線の計47路線が就航(2023年5月現在) ● 2020年度より道内7空港にて一括民間委託による運営が開始され、空港運営の効率化や航空ネットワークの充実など様々な効果が期待

JR・道路都市間所要時間



北海道新幹線の開業（予定）図



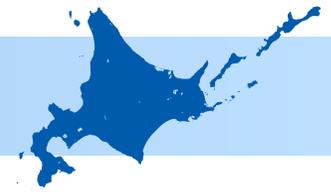
道内航空路線網図 / 主な道内空港と道外空港の所要時間と発着便数



空港	羽田	仙台	中部国際	関西・伊丹	発着便総数(国内)
新千歳空港	1:40 56便	1:15 15便	1:50 14便	2:20 26便	111便
旭川空港	1:45 7便	-	-	-	7便
釧路空港	1:45 6便	-	-	-	6便
帯広空港	1:45 7便	-	-	-	7便
函館空港	1:30 8便	-	1:35 1便	1:40 2便	11便
女満別空港	1:55 5便	-	-	-	6便

上段：所要時間 下段：1日あたりの往復発着便数(2023年4月現在)

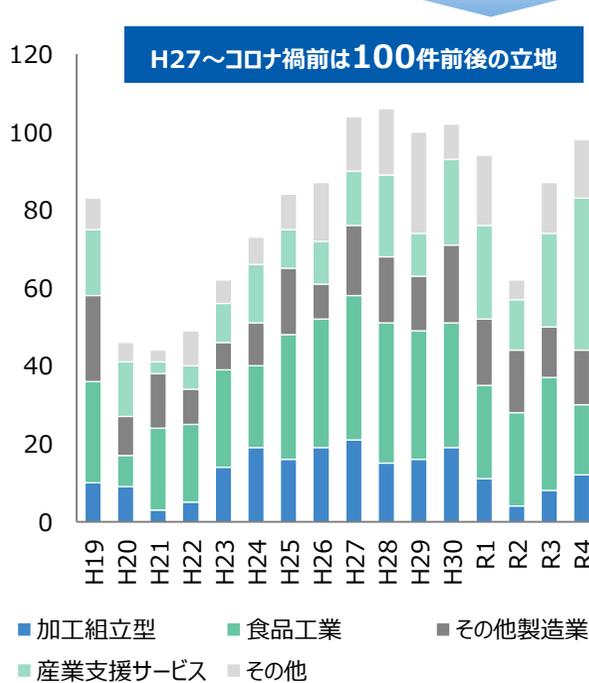
1. 北海道の概要 北海道の企業誘致



- 道の立地件数は、令和4年度は98件、令和5年度は103件となり、増加傾向。引き続き、企業誘致に注力。
- 道では「北海道半導体・デジタル関連産業振興ビジョン」を策定し、ラピダス社の立地を契機に本道全体の経済活性化と持続的発展を図る。

企業誘致に向けた北海道の取組と実績

- 1 立地セミナー等の開催
- 2 企業訪問等の実施
- 3 地域提案力の支援
- 4 調査の実施・PRツールの整備



有利・立地の背景

産業支援サービス

新しい働き方やDXの進展に対応した本社機能移転やサテライトオフィス設置の動き。数多くの大学等が輩出する豊富な人材に着目した立地。

食品工業

気候や土壌がブドウ栽培やワイナリーに適しているとの評価の広がり。北海道の豊かな自然環境や食資源、水に着目した酒造りの適地としての立地の動き。

加工組立型工業

広大な土地やアクセスの利便性に着目したサプライチェーン強靱化に向けた立地。全国トップクラスの風力エネルギーのポテンシャル。

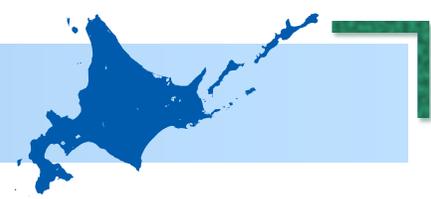
最近のトピックス

北海道半導体・デジタル関連産業振興ビジョンを策定！

- 半導体の製造、研究、人材育成等が一体となった複合拠点を実現し、本道の強みである産業振興と合わせて、本道経済全体の成長に結びつけるため、オール北海道で目指すべき指針となる「北海道半導体・デジタル関連産業振興ビジョン」を策定。
- 「次世代半導体をトリガーに、世界に挑む北海道」というキャッチコピーを掲げ、まずは、ラピダス社のプロジェクトを成功させ、半導体の複合拠点を実現し、すべての産業へのDX化を進める「北海道デジタルパーク」を展開する中で、その効果を全道に波及させていく。
- デジタルインフラを成長基盤として、本道に優位性のある農林水産業や観光業などのスマート化を図るとともに、ラピダス社の立地を契機とした投資や雇用、関係人口の拡大などの効果を積極的に取り込み、本道全体の経済活性化を図る。



1. 北海道の概要 「ゼロカーボン北海道」へ



- 道では2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボン北海道」を掲げ、取組を推進。
- 洋上風力発電の導入に向けた環境整備や道内におけるサプライチェーン構築、人材育成を支援。

「ゼロカーボン北海道」に向けた取組



北海道内の温室効果ガス排出量を 2030年までに48%削減、2050年までの実質ゼロに

- 道では、2020年3月に「2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す」ことを表明。
- 北海道が有する豊かな地域資源を最大限に活用しながら、脱炭素化と経済の活性化や持続可能な地域づくりを同時に進める「ゼロカーボン北海道」に向け、道民・事業者・市町村・団体などあらゆる主体が一体となり、その実現を目指す。

取組事例

ゼロカーボン 北海道チャレンジ



エコ& セーフティドライブ啓発



北海道地球温暖化 防止対策条例



豊かで美しい自然環境を有するこの北の大地を将来の世代に引き継ぎ、我が国のみならず、世界の地球温暖化防止対策に貢献していくため、令和5年3月この条例を改正。

道内の洋上風力発電導入に向けた動きと北海道の取組

港湾内における洋上風力発電施設の建設 (石狩湾新港洋上風力発電事業)

【プロジェクト概要】

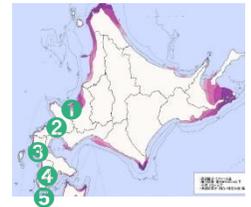
- 事業会社： 合同会社グリーンパワー石狩
- 建設地点： 北海道石狩湾新港（港湾区域の一部）
* 港湾法に基づく建設
- 設備容量： 8,000kW×14基
112,000kW（連系容量99,990kW）
- 運転開始： 2024年1月



再エネ海域利用法に基づく道内での区域整理状況

- 1 北海道石狩市沖
- 2 北海道岩宇・南後志地区沖
- 3 北海道島牧沖
- 4 北海道檜山沖
- 5 北海道松前沖

北海道の日本海側5か所が
「有望な区域」として整理



北海道の取組①～導入に向けた環境整備

- 漁業者をはじめとした海域の先行利用者や、市町村など地域の関係者の理解を促進。
- セミナーの開催や先行事例集の作成などを通じ、全道規模でも関係者の機運を醸成。

北海道の取組②～送電インフラ整備

- 北海道の再エネポテンシャルの活用に向けて、国に対し、北海道と本州を結ぶ海底直流送電ケーブルの整備などの道内外の送電網の増強と、地域に偏らない費用負担を求める。

北海道の取組③～サプライチェーン構築に向けた支援

- 関連事業への道内企業の参入促進のための、参入可能な事業分野の把握やその情報発信。
- 今後必要とされる建設工事・メンテナンス等に従事可能な技能人材の育成を支援。

1. 北海道の概要 北海道におけるSDGsの取組



- 持続可能なまちづくりや地域活性化を推進するため、国は優れたSDGsの取組を提案する自治体を「SDGs未来都市」として選定しており、北海道の提案した「北海道価値を生かした広域SDGs事業」が平成30年6月に選定
- 北海道では、提案内容を具体化した「北海道SDGs未来都市計画」を平成30年8月に策定し、道内自治体や関係団体など多様な主体との連携による情報発信や普及啓発等により、SDGs推進に向けて様々な取組を展開

北海道のSDGs推進に資する取組



2. 北海道の財政状況

2. 北海道の財政状況 行財政改革の取組



- 財政の健全化に向け、平成9年から取組を実施。
- 持続可能な財政構造の確立に向け、現在は「行財政運営の基本方針（2021～2025）」に沿った取組を推進。

道財政運営におけるこれまでの取組



2. 北海道の財政状況 「行財政運営の基本方針（2021～2025）」



- これまで徹底した行財政改革に取り組んできた結果、収支不足はピーク時の約7分の1まで縮小するなど、道財政は着実に改善。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響等により、令和3年度以降も収支不足が見込まれ、令和3年4月に当面の取組などを示した「行財政運営の基本方針」を策定
- 令和4年3月に令和4年度以降の財政運営の基本方針や令和5年度までの収支対策、財政の健全化に向けた目標などを示した改訂版を策定
- 令和6年3月には、「行財政運営の基本方針<改訂版>」に基づく「令和6～7年度における収支対策」を公表

行財政運営の基本方針（2021～2025）の推進イメージと内容

推進期間：令和3年度（2021年度）～令和7年度（2025年度）

推進イメージ



具体的な内容

分野	取組の必要性	取組項目
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少に伴う労働力不足など、社会情勢の変化に迅速にできる組織体制の構築 ● 感染症への対応で顕在化した行政のデジタル化への対応 	◎「Smart道庁の取組」の一層の推進 1. 職員の力を最大限に引き出す組織体制の構築 2. 職員の力を最大限に引き出す人材育成の推進 3. 職員の力を最大限に引き出す働く環境づくり 4. 道政への信頼性の確保・向上に向けた取組の推進 5. 行政サービスのデジタル化の推進
資産管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 歳出削減や歳入確保を図るため、庁舎等のストックマネジメントや道有資産の有効活用の推進 	1. 庁舎等のストックマネジメントの取組推進 2. 道有資産の有効活用
財政運営	<ul style="list-style-type: none"> ● 感染症や大規模自然災害等のリスク、社会経済情勢の変化に機動的かつ的確に対応できる持続可能な財政構造の確立 	1. 収支不足額の縮小 2. 実質公債費比率の改善

財政運営分野における具体的な項目と目標値

区分	項目	目標値
財政健全化に向けた2つの目標	収支不足額の縮小	収支不足額の計画的な解消を図るため、歳出削減や歳入確保などに取り組み、計画期間中は収支不足額の逡減を図る
	実質公債費比率の改善	高い水準で推移する実質公債費率の改善を図るため、新規道債発行の可能な限りの抑制や計画的な減債基金への積戻しなどに取り組み、計画期間中は早期健全化基準である「25%未満」を維持する
財務体質の改善に向けた中長期的な取組	財政調整基金の確保	後年度予算の財源確保のため、年間を通じた経費削減等に伴う財源などを活用した積み立てに努める。将来的には、標準財政規模の3.75%相当額（概ね500億円程度）の確保を目指す
	短期貸付金の見直し	北海道住宅供給公社に対する短期貸付の段階的な長期貸付への転換と北海道土地開発公社に対する段階的な用地取得等に努める

2. 北海道の財政状況 健全化判断比率の推移



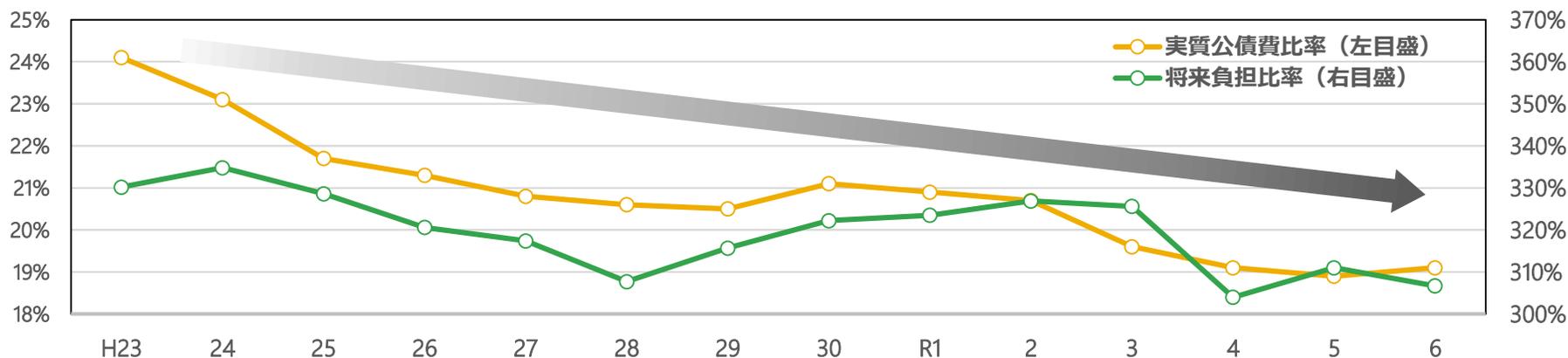
- これまで「行財政運営方針」（R3～R7）に基づき、財政健全化に向けた取組を推進。
- 「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」で定められた健全化判断比率のうち実質公債費率及び将来負担比率は、改善傾向。

健全化判断比率の推移

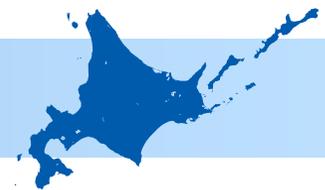
区分	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	(参考) 国が定める 早期健全化基準
① 実質赤字比率	該当なし									3.75%以上
② 連結赤字比率	該当なし									8.75%以上
③ 実質公債費比率	20.6%	20.5%	21.1%	20.9%	20.7%	19.6%	19.1%	18.9%	19.1%	25%以上
全国平均	12.7%	11.9%	11.4%	10.9%	10.5%	10.2%	10.1%	10.1%	—	
④ 将来負担比率	307.7%	315.7%	322.2%	323.5%	326.9%	325.6%	304.0%	311.0%	306.7%	400%以上
全国平均	175.6%	173.4%	173.1%	173.6%	172.9%	171.3%	160.3%	154.2%	—	

※年度：算定年度

健全化判断比率の推移グラフ

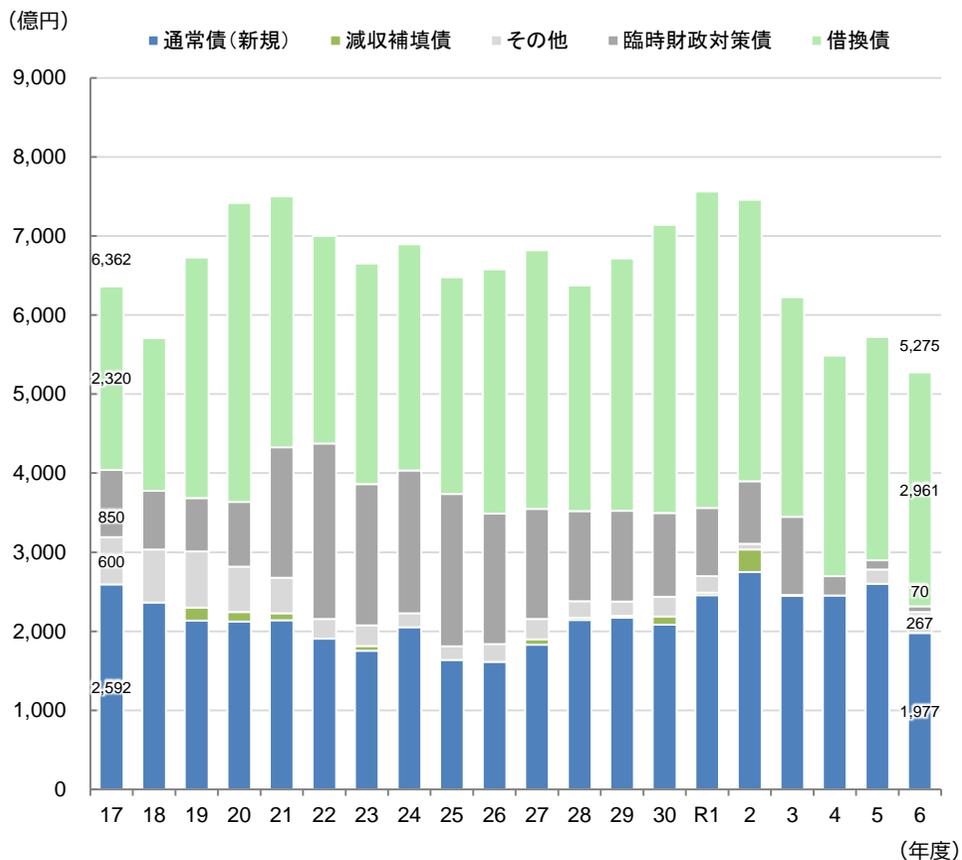


2. 北海道の財政状況 道債発行額／道債残高の推移



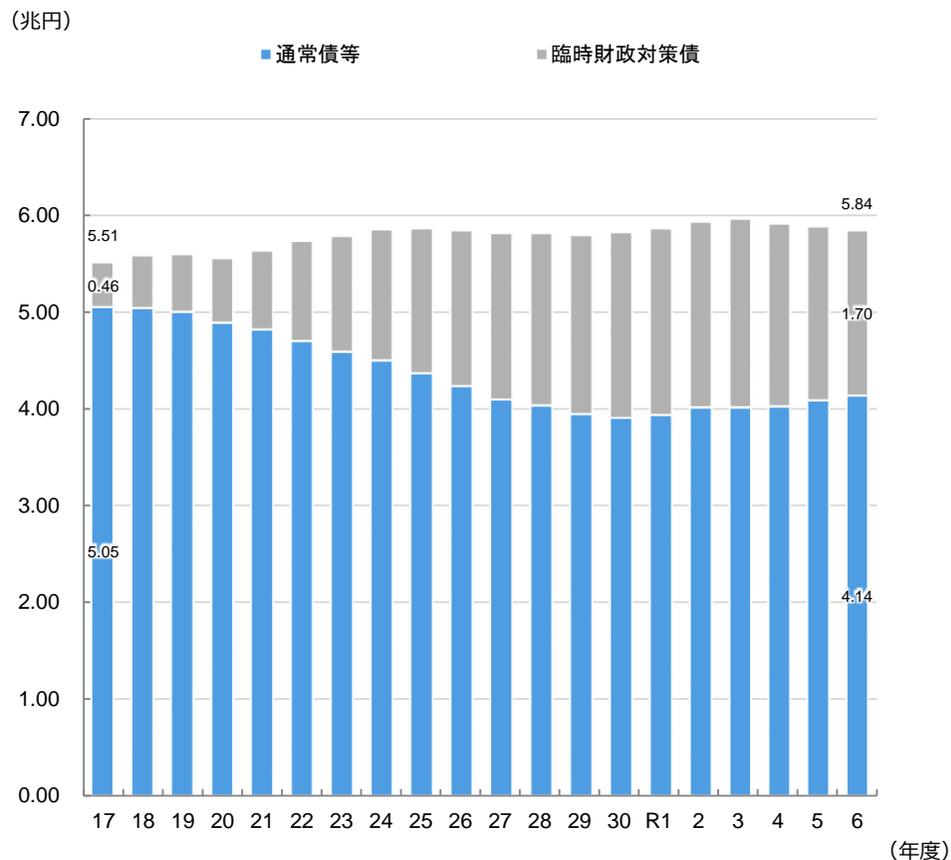
- **発行額**：これまでの投資的経費などの抑制に伴い、借換債と臨時財政対策債（償還費は実質国が負担）を除く通常債等の発行額は減少傾向にあったが、令和元年度、2年度は国の防災・減災、国土強靱化対策に伴い通常債の発行額が増加。
- **残高**：これまでの投資的経費などの抑制に伴い、通常債等の残高は、減少傾向。

道債発行額の推移



※ H17～R5は決算額、R6は予算額(当初)
 ※ その他は行政改革推進債、退職手当債、調整債

道債残高の推移



※ H17～R5は決算、R6はR6当初予算時点における年度末見込みの数値

2. 北海道の財政状況 令和5年度 普通会計決算の概要



- 新型コロナウイルス感染症対策のための国庫支出金や経費が減少したことにより前年度比では歳入・歳出ともに減少。
- 実質収支は前年度から約8億円の増加となる284億円の黒字。

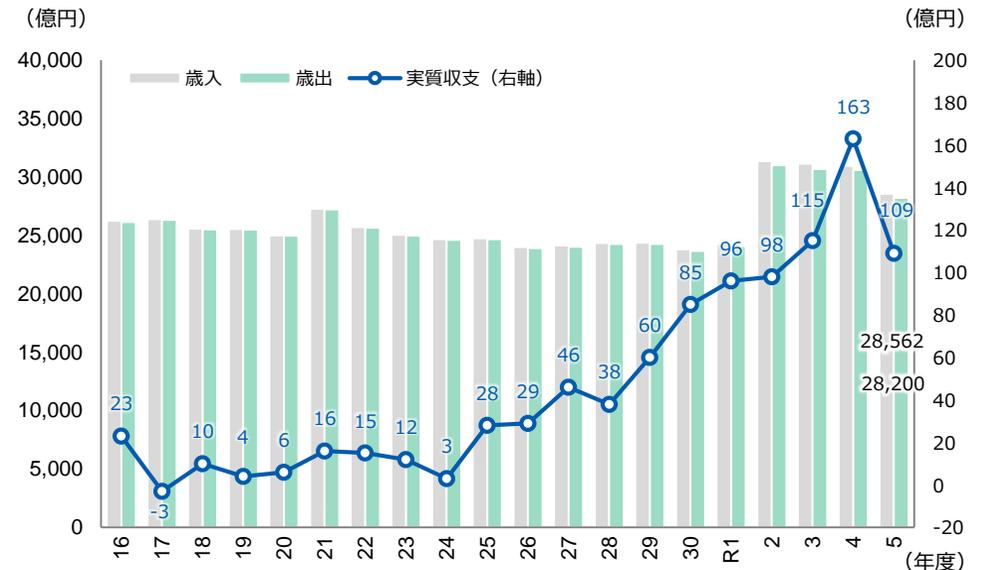
歳入総額	2兆8,562億円 (前年度 ▲2,385億円)	新型コロナウイルス感染症対策のための国庫支出金が減少したことが主な要因。
歳出総額	2兆8,200億円 (前年度 ▲2,385億円)	新型コロナウイルス感染症対策経費が減少したことが主な要因。
実質収支	284億円 (前年度 +8億円)	国に返還が必要な「新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金」175億円を除いた額は109億円であり、実質的に前年度から54億円の減少。

R5年度決算収支状況

区分	R4	R5	増減
道税	7,579	7,520	▲59
地方交付税	6,562	6,570	+8
国庫支出金	7,553	4,960	▲2,593
道債	2,730	2,938	+208
その他	6,523	6,574	+51
歳入計	30,947	28,562	▲2,385
人件費	5,503	5,288	▲215
公債費	3,786	3,764	▲22
普通建設事業費	4,772	4,886	+114
その他	16,524	14,262	▲2,262
歳出計	30,585	28,200	▲2,385
翌年度に繰り越すべき財源	86	79	▲7
実質収支	276	284	+8

※ R4、R5の実質収支には国に返還を要する「新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金」等の剰余額が含まれている。

普通会計決算規模・実質収支の推移

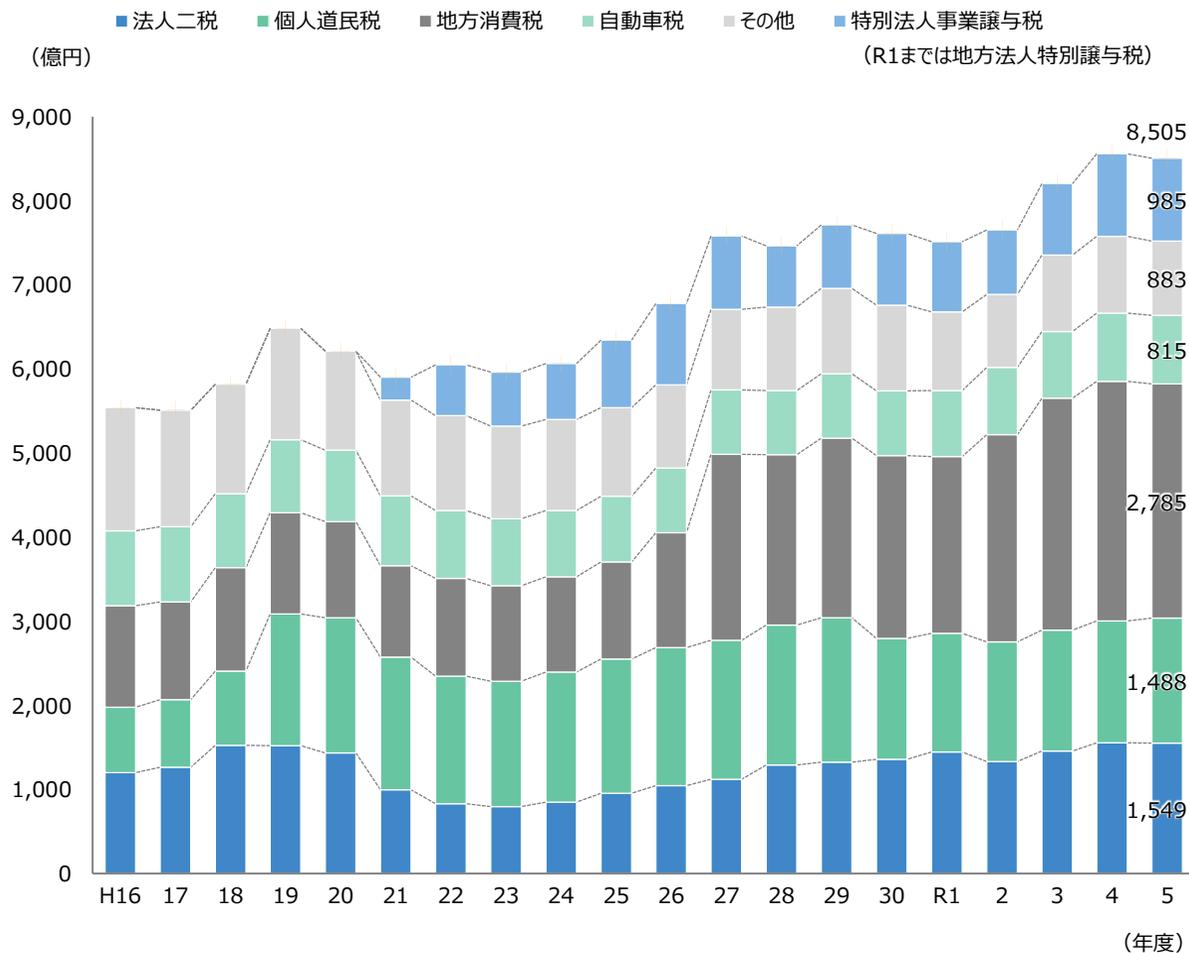


※ R2～R5の実質収支には国に返還を要する「新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金」等の剰余額を除いている。15

2. 北海道の財政状況 税収の推移



- H19は税源移譲の影響などにより6,483億円まで増加。
- その後、景気の落ち込みや制度改正により一旦減少するも、近年は地方消費税が増加したことなどにより、7,000億円～8,000億円台で推移し、R5は過去2番目に高い8,505億円。

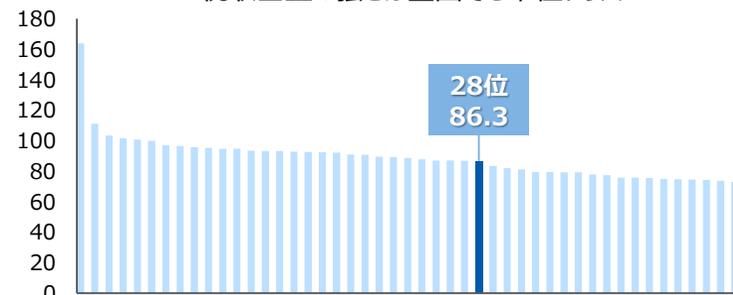


※ 決算額

税収基盤の他団体比較

人口1人あたり地方税額の指数 (R4年度)

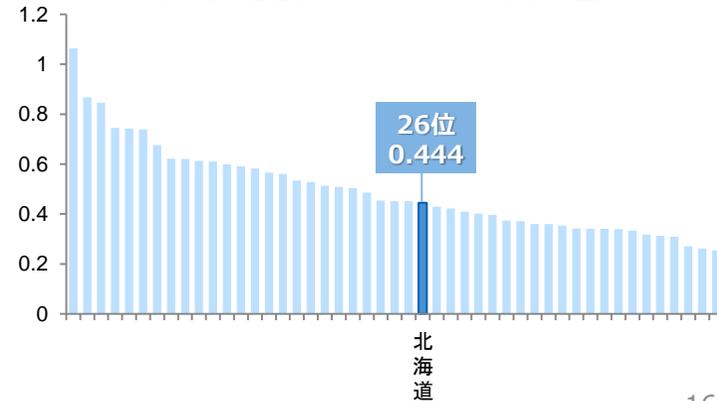
税収基盤の強さは全国でも中位クラス



※ 全国平均：100の場合の数値

財政力指数 (R4年度)

財政力の強さは平均0.494に対して中位クラス

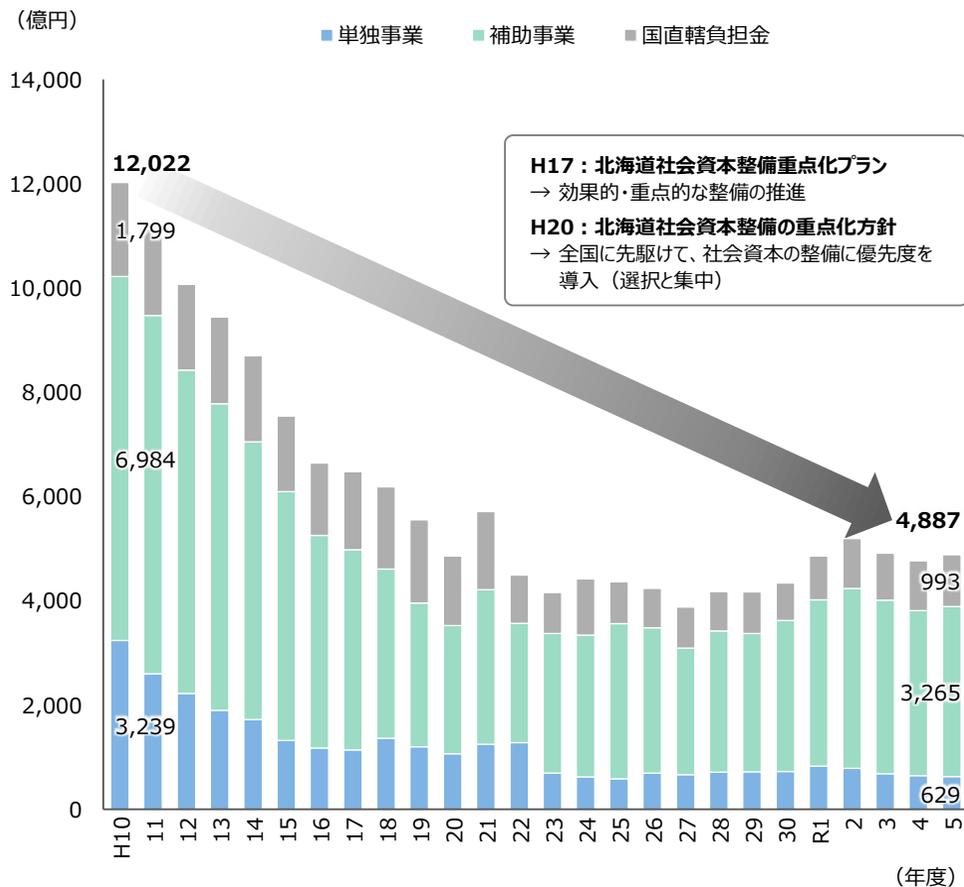


2. 北海道の財政状況 投資的経費／人件費の推移



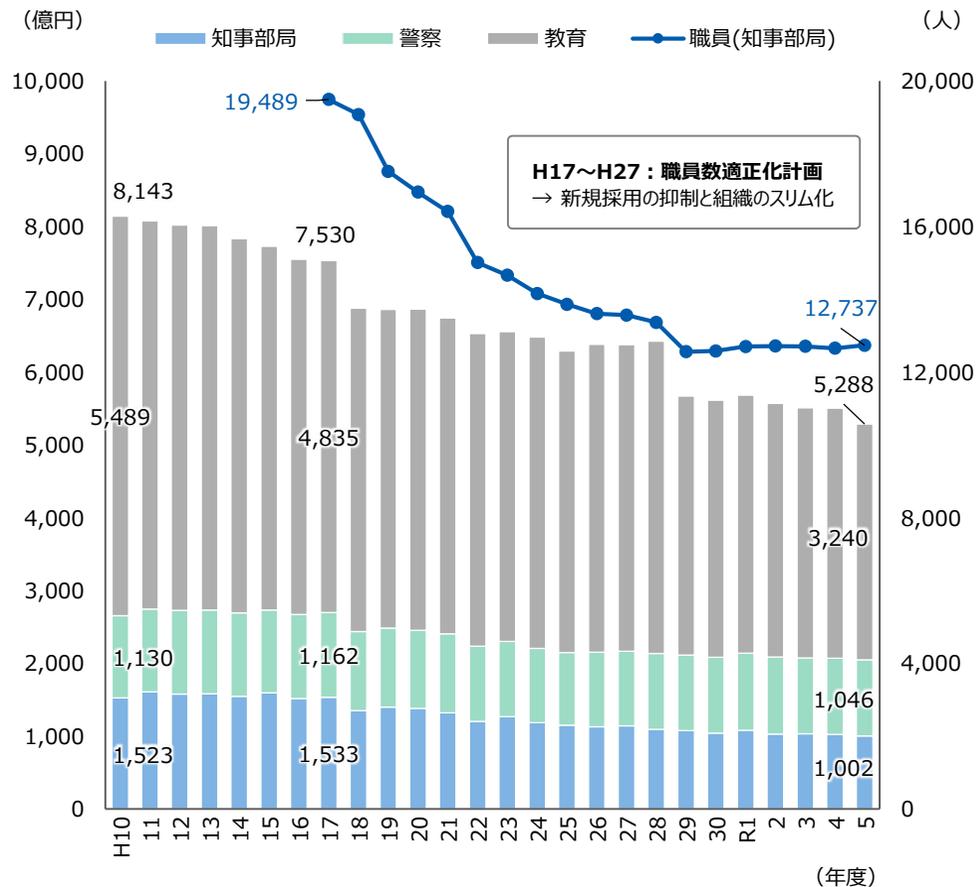
- ピーク時のH10年度以降、投資的経費を段階的に抑制。(R5 : H10対比 ▲7,135億円、▲59.3%)
- 『職員数適正化計画』(H17～H27)に基づき、職員数を計画的に抑制。(R5.4.1 : H17対比 ▲6,752人、▲34.6%)

投資的経費の推移



※ 決算額
 ※ H21の大幅な増加は、国の経済対策等の実施によるもの
 ※ R1、R2の増加は、国の防災・減災、国土強靭化対策によるもの

職員数と人件費の推移



※ 決算額
 ※ H29の教育人件費の大幅な減少は、教職員給与負担の政令市への移管によるもの

2. 北海道の財政状況 令和6年度 北海道債発行計画



- 市場公募債は2,700億円の発行を計画。10年債は偶数月に、5年債は奇数月に定例的に発行予定
- 市場環境に応じた機動的な発行を図るため、フレックス枠を活用して、100億円発行予定

令和6年度北海道債発行計画

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
市場公募債	10年債	200		200		200		200		100		100		1,000
	5年債		100		100		100		100		200		200	800
	フレックス枠						100							100
	共同債						800							800
公募計														2,700
銀行等引受債							2,421							2,421
政府系資金							789							789
合計														5,910

※ 今後の状況変化等により発行計画が変更となる可能性があります

※ フレックス枠については、今後の状況の変化等により銀行等引受債に振替えて発行する可能性があります。

市場公募債（10年債・5年債）の発行について

- プレ・マーケティングにより発行条件を決定（シ団メンバーの引受希望条件の加重平均値等を参照）
- 発行日は原則月末（3、9月は25日）、償還日は原則発行日応当日
- 利払日は3、9月の25日に設定

2. 北海道の財政状況 **グリーン共同債について**



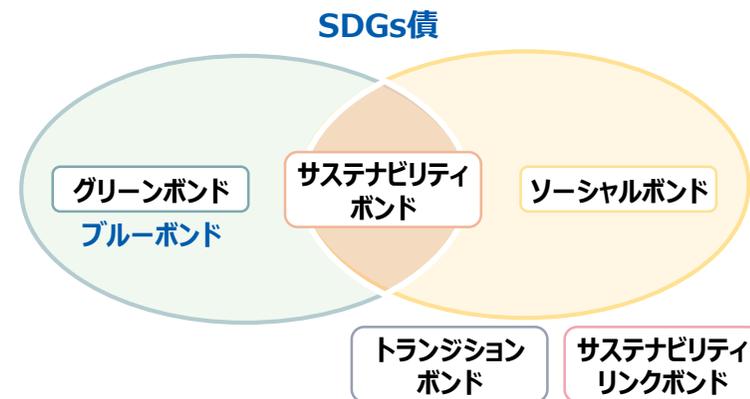
- 国内機関投資家の中でESG投資へのニーズが高まっている状況において、昨年度、国はグリーン共同債を創設し、本道もこれに参加。今年度も引き続き参加を予定

グリーン共同債の概要について

発行概要	内容
① 発行時期	年度後半の発行を予定（昨年度は11月・3月に総額1,064億円発行）
② 償還年限	10年債を予定
③ 引受方式	主幹事方式を予定
④ 発行額	総額1,200億円程度を予定
⑤ 参加団体	北海道 、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、新潟県、富山県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、島根県、岡山県、広島県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、川崎市、新潟市、静岡市、浜松市、京都市、堺市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市（R6.4月末時点）

グリーンボンドとは

企業や地方自治体等が、国内外の環境問題の解決に資する事業（グリーンプロジェクト）に要する資金を調達するために発行する債券



環境への意識の高まり

- 世界的に環境への配慮に対する意識が高まる中、ESG投資に積極的に取り組む動きが活発化
- SDGs債の需要は高まっており、国内におけるSDGs債の発行はグリーンボンドを中心に、増加傾向

2. 北海道の財政状況 北海道債の活用状況について



- 道内のあらゆる人々が将来の安全・安心を実感できる社会を形成するのみならず、環境・エネルギー先進地「北海道」の実現に向け、SDGs達成に向けた環境・社会的に有用な事業の財源として北海道債を発行

北海道債の活用状況について

環境

生物多様性の保全と豊かな自然からの恵みの持続可能な利用



森林整備事業（造林）〈函館市ほか〉

総事業費	2,224百万円（うち道債 1,108百万円）	
事業概要	道有林内の計画的な森林整備の維持・増進を図る。	
事業効果	多様で健全な森林づくりを先導的に実践することにより、森林の公的機能の高度発揮や森林吸収源対策の推進を図る。	

支笏洞爺国立公園樽前山線道路（歩道）整備事業（苫小牧市）

総事業費	15百万円（うち道債7百万円）	
事業概要	老朽化した自然公園内の道有施設更新のため、ロープ柵を整備。	
事業効果	北海道が世界に誇る、豊かで優れた自然を保全し、次代へ継承するため、自然環境の保全や自然公園の適正利用等を推進する。	

社会

気候変動に対応した地域防災力の向上



望月寒川改修工事 〈札幌市〉

総事業費	24,780 百万円（うち道債7,434百万円）	
事業概要	大雨などによる浸水被害を防止するため、河道の掘削による河積の拡大や放水路トンネルを整備。	
事業効果	気候変動により、近年、激甚化・頻発化する水災害を防止・軽減することにより、安心して住み続けられるまちづくりを推進する。	

地域と未来を担う人づくり



北海道新十津川農業高等学校校舎改築工事〈新十津川町〉

総事業費	1,017百万円（うち道債 919百万円）	
事業概要	安全安心で快適な教育環境を確保するため、老朽化した校舎を改築。	
事業効果	すべての子どもが教育を受けられる教育環境を確保し、地域と未来を担う人づくりを推進する。	



北海道総務部財政局財政課資金係

TEL : 011-204-5300(資金係直通)

FAX : 011-232-8657

北海道債に関連するHP



- 道債

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/zsi/zaisei/dosai/top.htm>

※ 北海道のトップページからも開けます。

ページ上部: 組織から探す > 総務部 > 財政局財政課 >
地方債(北海道債のご案内) > 北海道債・IR情報



- 北海道

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>



- 財政課

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/zsi/index.htm>



- 本資料は、投資家向けに情報提供するものであり、投資に関する売買等の取引を提案、勧誘、助言するものではありません。
- 本資料に掲載している情報は、修正される場合があります。